

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

| | |
|----------|---|
| モデル事業名 | むらを学ぶ「むらの教科書づくり」事業 |
| 対象地域 | 那智勝浦町色川 |
| 活動概要 | <p>集落として維持困難になると危惧される地域(いわゆる「限界集落」)においては、Iターン誘致に期待が高まっている。しかし、自らの「田舎暮らし」の夢を実現するために移住し、移住後は日々の暮らしに追われるIターン者を増やすことが、本当の意味で地域を守ることにつながるとは限らない。高度成長以来、いわば社会全体で田舎の存在意義が否定されてきたなか、それでも今まで田舎を担い続けてきた地域住民自身が、むらと自らの人生との価値を再発見し、誇りをしっかりと持ち直し、むらを次世代に継いでいこうと立ち上がることにこそ、本当の意味で地域を守る可能性が残されている。</p> <p>一方で、地域住民の高齢化は着実に進んでおり、ここ数年で広く各地の集落にそうした機運が生まれなければ、何千年と積み重ねられてきた日本人の原点ともいべき場所や、そこでの何気ないくらしは途絶えてしまうと考えられる。</p> <p>このため、大学生による総合的な現地調査を行い、成果物として「むらの教科書」を作成する。都会生活しか知らずに育った若い学生がむらに入り、むらで昔から営まれ受け継がれてきたくらしに関心を抱き、お年寄りの声に真剣に耳を傾けて記録を残すことをきっかけに、むらのもつ価値が社会的に広く正当に評価され、むらが誇りと活力をとりもどし、本当の意味でむらが守られていく機運を生み出すことを目指す。今年度、色川地域において試験的に実施した経験を発信することにより、来年度以降他の地域に広く波及させることを目指す。</p> |
| 今年度の主な取組 | <p>大学生が、色川地区内の小阪集落に滞在し、お年寄りに対し聞き取り調査を行う。各学生が作成したレポートをとりまとめて、各地区の「むらの教科書」とする。「教科書」は主に、各地区の歴史・受け継がれてきた営みに関するものであるが、具体的な内容については調査を進めるなかで、学生と地区住民との対話によって決めていく。調査は、「教科書」の項目に限らず、広く学生にむらのくらしを体験してもらうことを目指す。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 活動結果 | <p>集落で伝承されてきたものを受け継ぐ流れを産み出すという「むらの教科書づくり」とおして学生と集落住民との対話の機会を設けることにより、学生・地域住民の新たな交流が生まれ集落の高齢者が活気を取り戻した。刺激を受けた50代～60代のUターン者住民が中心となって地元青年会が50年ぶりに再結成されるなど、住民自ら集落の活性化に向けた取組を行う動きがみられるという成果となった。</p> |
| 当初予想していなかった効果 | <p>那智勝浦町が設置した「集落支援員」の活動内容に「昔の暮らしにまつわる聞き取り調査」が追加されたことや、色川地区内全域で住民有志により古老の話を聞き取り記録していく「色川を語りつぐ会」が発足(2009.2)したことなど、近隣他集落への波及効果がみられた。</p> |
| 実施状況(写真) | <div data-bbox="719 902 1160 1227" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="655 1238 1262 1274">【写真】学生による集落での聞き取り調査</p> |
| 応募団体名 | 色川百姓養成塾 |
| リンク | http://blog.goo.ne.jp/irogawa100sho |
| 部局／担当者名 | 事務局 春原麻子 |
| 連絡先 | TEL/FAX 0735-56-0130 |
| 推薦市町村名 | 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町 |